

本日の
プログラム

犯罪被害者はどうして救われないのか

札幌真駒内RC奉仕プロジェクト委員長 山田 廣 氏

新会員卓話 田上政行 会員

食事にビタミン愛を!

まず、わたくしの経歴をお話させていただきます。

私は昭和27年、後志管内の岩内町で生まれました。今年は古稀という、考えもしなかった年齢を迎えます。学生時代は剣道に打ち込み、三年間で二段の免状をいただきました。高校を卒業後、札幌の電気器具販売店に勤務、その後、本州資本の給食受託会社に勤務し、57歳で同じ給食受託を起業し現在に至ります。

弊社の業務内容は病院及び福祉施設の食事を受注するアウトソーシングの仕事です。北海道内は札幌、旭川、帯広、釧路、函館、岩内、東北は盛岡、八戸、五所川原と全社で56か所のお得意先にお世話になっております。

昨今、病院の食事はおいしくない！食事時間が早い！冷たくて不味い！の三悪と言われてきましたが、現在では多くの給食受託会社が工夫をこらし、家庭と同じ食事を提供できないか日々検討し努力しております。

起業するにあたり、同業者との差別化を図るには、と考えていた頃、以前勤務していた給食受託会社での経験が現在の弊社の企業理念に結びつきました。

今から20年前の事になりますが、道南地区のある老人ホームから、食事の食べ残しが多くて困っているとの話があり、入居者が食事をしているところを実際に見に行きました。すると、リンゴは皮をむいていないものが1個そのまま、昆布巻きも切らずに長いまま、ご飯と味噌汁も冷めており、これでは食べ残しも多くなると感じました。入居者の事を考えて食事を作っているわけではなく、自分達が楽をする為だけの仕事をしていたのです。

その後、その老人ホームから給食提供の契約を頂きましたが、初日の昼食の時にエレベーターが小さいので全員の井を一度に運べないという問題が起りました。そのエレベーターに乗らない80食を、温かいうちに食べてもらおうと、私も含め従業員全員で時間までに配膳しました。すると一人のおばあちゃんが、「こんなに美味しいもの食べたことない」と私の手を握り締めて泣いてしまい、私はその言葉に感動し、胸が詰まりました。その施設は身寄りのない方がほとんどで、食べ物、食を通して感動や喜びを

与える影響は思っていたよりずっと大きい事だと改めて感じました。

現在、弊社は地産地消をメインに材料にこだわり、温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たく、家族や身内のつもりになって食事を作っていこうと考え、日々、誠意・努力・感謝の気持ちをもって邁進しております。私達の仕事はロボットでは出来ない仕事です。マンパワーで毎日食事を提供していかなければなりません。皆様に喜んでいただく食事は食材・調味料よりも食事をつくる方の気持ちなのです。ビタミン愛のたくさん入った食事は美味しいはずですが、皆様も愛情たっぷりに作ってくれる今日の夕食を作ってくれた方に一言、「美味しいね」と言ってあげてください。

また、新たな事業として児童発達支援・放課後等デイサービスを2019年7月に起ち上げました。施設の名称は「きいろいりぼん」です。現在は発寒地区に2件「第1ひかりのひろば」「第2ひかりのひろば」を、東区に3件目「にじのひろば」を開設しております。

発達に心配な点や気になるところがあるお子様を対象に、一人ひとりの発達を把握、個々に応じた目標を提案しながら、療育を通じて社会生活に必要なルールやマナーを理解出来るように支援する場です。

昨年12月に施設で餅つきをしました。餅つきを知っている子は一人もいませんでしたが、一人ひとりに杵を持たせ職員と一緒に餅をついてもらったところ、子供たちの顔から溢れる笑顔を見ることが出来ました。粘土のように捏ねる子、恐る恐るにおいを嗅ぐ子、頬に餅を付ける子、口いっぱい頬張る子とそれぞれ楽しそうでした。普段は一人で遊ぶ子がほとんどですが、全員の力を合わせて何か一つの目的を持って参加してもらおうと、また新しい発見がありました。将来この子供たちが社会の中に溶け込み一人前の大人として立派に活躍してくれる事を願っております。

これからもご縁のある方の笑顔に真心でこたえる仕事をしていきたいと思っております。



■本日のロータリーソング
奉仕の理想

2021~2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ